



平和への思いを込めた灯籠流しにも参加しました



原爆ドーム前にて



各グループに別れ、現地で感じたことなどを来場者に伝える平和大使

●小中学生平和大使が体験報告会、戦争の悲惨さなどを伝えました

8月27日、村立図書館において、村内の小中学校から平和大使として広島市を訪問した児童・生徒による体験報告会「平和について考えよう Peace Messenger Forum in TOKAI」が行われました。広島平和記念式典への参加や原爆体験者の話などを通して、「戦争は他の遠い国の出来事だと思っていたけれど、身近に感じた」「原爆で亡くなった方も辛かったが、残された人はもっと辛かっただろう」と、広島で見たこと・聞いたこと・感じたことなどを来場者に切に伝えていた平和大使たち。川崎教育長は、「戦後70年が経過し、多くの人が戦争を体験していない世代になっています。こういった機会を通して、戦争の悲惨さを伝え続けていくことが大切です」と話し、「歴史から学び、語り継ぐこと」の大切さを訴えていました。

●フローレスタ須和間区でバス利用をPR！

9月20日、フローレスタ須和間集会所で行われた地域イベント(バザー)に、茨城交通株式会社の「らくがきバス」が登場し、10月から同地区内の運行が増便する路線バスの利用をPRしました。「らくがきバス」は、バスの片面が白く塗られており、描かれた絵などをそのままバスのラッピングデザインとして実際に道路を走行するというもの。会場に集まった子どもたちは、バスに思い思いの絵を描いたり、また、バスの車内を探検したり、運転席に座ったりしながら、地域の身近な交通手段となるバスに親しんでいました。



●明日の農業を考える！ 農業交流フォーラム

私たちの食と文化を支える農業について考える「2015東海村農業交流フォーラム」が、8月29日、東海ファーマーズマーケット「にじのなか」で開催されました。現在、村では「東海村農業振興計画」を策定しており、農業者の高齢化や後継者不足、耕作地の減少など、農業を取り巻くさまざまな課題への取り組みを進めています。今回のフォーラムでは、農業がもたらす健康・福祉面の効果や、農業を通じた仲間づくり・まちづくりなど、農業の新たな側面について紹介されたほか、「都市型農業を楽しむには」と題した対談では、東海村の地域性に合った、小規模・多品目で、おいしい作物を作ることなどが提案されました。